

オキサリプラチンとカペシタビンの治療を受ける方へ

腫瘍は、正常細胞に比べて分裂増殖が盛んです。
 オキサリプラチンとカペシタビンは、分裂増殖が盛んな細胞に作用します。
 正常細胞でも分裂増殖が盛んな細胞は、薬の影響を受けやすく副作用として現れてきます。
 以下に、オキサリプラチンとカペシタビンによる治療の副作用をご説明しますが、これらの副作用がすべての方に必ず起こるわけではありません。



薬の名前	1～14日目		15～21日
ゼローダ (成分名;カペシタビン)			お休み
薬の名前	1日目	2～21日	
オキサリプラチン (成分名;オキサリプラチン)		お休み	

*上の表の21日を1回の治療として繰り返し行います。

*スケジュールは検査結果や患者様の体調で変わることがあります。

*点滴の前に抗アレルギー薬(フェキソフェナジン)を服用してもらいます。

一日のスケジュール

	点滴時間	薬の名前	薬の働き
	15分	生理食塩水50ml グラニセトロン デキサート	グラニセトロン、デキサート; 吐き気を抑える。
	120分	①ブドウ糖250ml	ブドウ糖;点滴チューブの洗浄、水分の確保、血管痛対策(オキサリプラチンの濃度を下げることによる)。
	120分 ①の側管から	②ブドウ糖250ml オキサリプラチン	オキサリプラチン; 腫瘍の細胞分裂を抑える。
	10分	生理食塩水50ml	生理食塩水; 点滴チューブの洗浄および状態の確認。

*①と②は同時に点滴します。

◎副作用について

●食欲不振・吐き気

程度の差はありますが、ほとんどの方に認められる症状です。

点滴治療の場合には点滴終了後3日程度とされています

症状が強い場合は時期に合わせて、吐き気止めのお薬を追加することがあります。

●疲労感

身体がだるく感じたり、疲れやすさを感じる場合があります。多くは点滴後3日間程度とされています。この期間は無理をせず休息をとるほか、散歩など気分転換をはかるとよいとされています。

●骨髄抑制

白血球が少なくなると、病原菌に対する体の抵抗力が弱くなり、感染症を起こしやすくなります。そのため、手洗い・うがいを心がけましょう。

特に治療期間中38.0度以上の発熱、37度台であっても悪寒や咳、のどの痛み、排尿時の痛みなどがある場合は感染症にかかっている場合があるので病院へ連絡しましょう。

赤血球が減少することで貧血になる場合があります。

血小板は止血に働くため減少が強いと出血しやすくなります。歯茎からの出血や鼻血の症状に注意が必要です。

●下痢・便秘

1日3回以上の排便回数の増加や水様便が出る場合があります。

症状が続く場合は、脱水症状を防ぐため水分補給を行ってください。

症状に合わせて下痢止めを使うことがあります。

また、便秘になる場合もあるので便秘の場合は下剤を使用することがあります。

●口内炎

口の中・歯肉・咽頭がしみる、ひりひりする、赤くなるといった症状が出る場合があります。

口内炎は予防がもっとも大切です。口の中を清潔に保つよう心がけましょう！！

●味覚障害

味覚障害は、甘味、塩味、酸味、苦味、旨味の5つの基本味の変化に対する症状であり、具体的には何を食べても味が薄く感じる(味覚減退)や味を全く感じない(味覚消失)などを生じる場合があります。

●血管痛・静脈炎、注射部位熱感・局所痛

薬が血管を刺激するため、治療中に血管の痛みや腫れが起こることがあります。また、数日後にも発赤、腫脹、熱感などを感じる場合があります。異常を感じたらすぐにお知らせください。点滴の種類によっては点滴する腕を温めて点滴をします。

●間質性肺炎

息切れ、呼吸苦、せき及び発熱の症状が続く場合は早めに相談しましょう。

●脱毛

この治療は脱毛の頻度は比較的低いと言われていています。抜け毛が気になったり、髪の毛が細くなることがあります。個人差があるため、多く抜けてしまう場合もあります。おおよそ薬の投与2～3週間後から多く起こります。髪は、抗がん剤の治療が終われば3～6ヶ月後には再び生えてくる場合が多いです。

●オキサリプラチンの末梢神経障害

急性の症状・・・手足、口のまわりのしびれやチクチクする痛み、舌の感覚がおかしい、のどがしめつけられるなどの症状があります。点滴した直後から2-3日程度の間みられる場合が多く、冷たいものの刺激で誘発されます(ドアノブ触れたときの静電気のような症状)通常数日で回復します。(冷たいものに触れると末梢神経障害が悪化するといわれているので症状があるときは冷たいものを避けましょう)

慢性の症状・・・治療を繰り返してオキサリプラチンの投与回数が多くなると手足の持続的なしびれや痛みが生じてくる場合があります。(日常生活に支障をきたすこともありますのでボタンがしにくい、つまづいてこけそうになる、箸がもちにくいなどの症状があるときは我慢せずに相談しましょう)

●手足症候群

好発部位は、手や足の皮膚、爪の四肢末端部です。
軽度の場合は、紅斑、色素沈着で終わりますが、重度のものになると、疼痛を伴う発赤・腫脹、水疱(水ぶくれ)、びらんを形成することもあります。
予防のためにハンドクリームで手の平と足の裏を保湿することが重要です。

●アレルギー

発熱、寒気、ふらふら感、しびれ、呼吸困難、かゆみ、発疹、紅潮、眼や口の周囲の腫れ、発汗が起こることがあります。点滴を初めて受けたときにあらわれる場合と、何コースか繰り返した後で起こる場合があります。



これら以外の副作用があらわれる場合もありますので、気になる症状があらわれた際には必ず医師、薬剤師または看護師にご相談ください。